

会員企業の現状に関するアンケート調査 報告書

令和3年10月12日
一般社団法人群馬県建設業協会

令和3年度が半年経過し、会員企業の現状について、上半期の受注状況と今後の見通し、年度の売上予想に関するアンケート調査を実施しました。

調査期間 令和3年9月17日～27日

調査対象 一般社団法人群馬県建設業協会 本部会員 271社（全社対象）

回答社数 238社（回答率 87.8%）

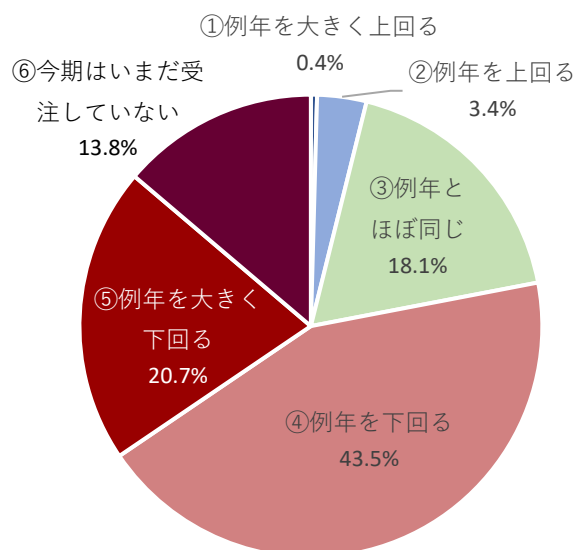
【留意事項】

- ・割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計の表記が必ずしも100.0%とはなりません。
- ・選択項目毎に該当がない社を除くため、分母はその都度変わります。
- ・項目内の「例年」とは、過去5年間とその平均値を指し、受注量は請負金額ベースとしています。

1. 令和3年4～9月までの群馬県発注工事（土木、建築を含む）の受注量

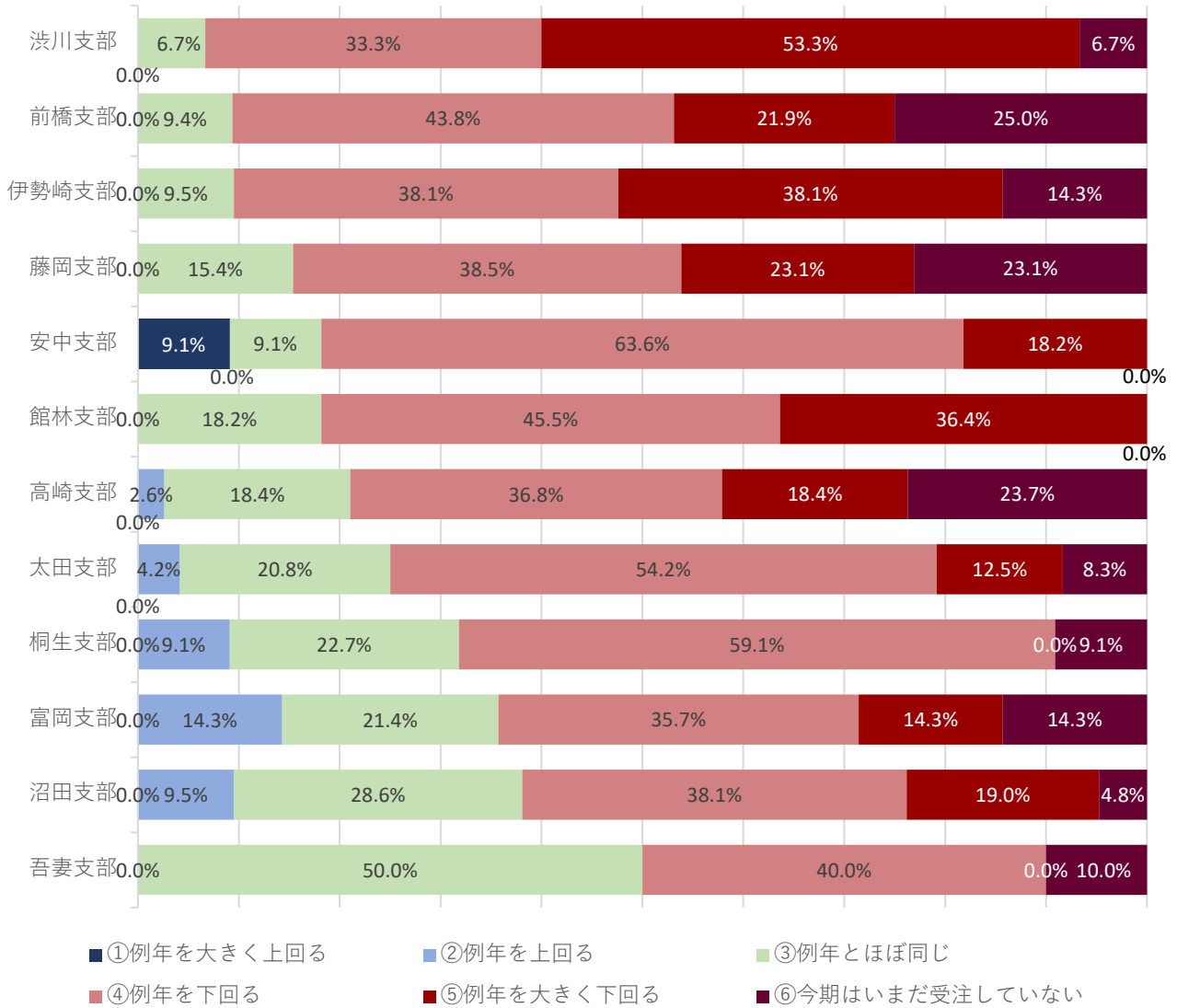
項目	選択社数
①例年を大きく上回る	1
②例年を上回る	8
③例年とほぼ同じ	42
④例年を下回る	101
⑤例年を大きく下回る	48
⑥今期はまだ受注していない	32

※例年群馬県工事を受注していないと回答した6社を除く社数（232社）。



例年を大きく上回る、もしくは上回ると回答した割合は3.8%に留まり、今期受注なしを含めて例年を下回ると回答した割合は78%と高い数値となった。

【各支部別の状況】



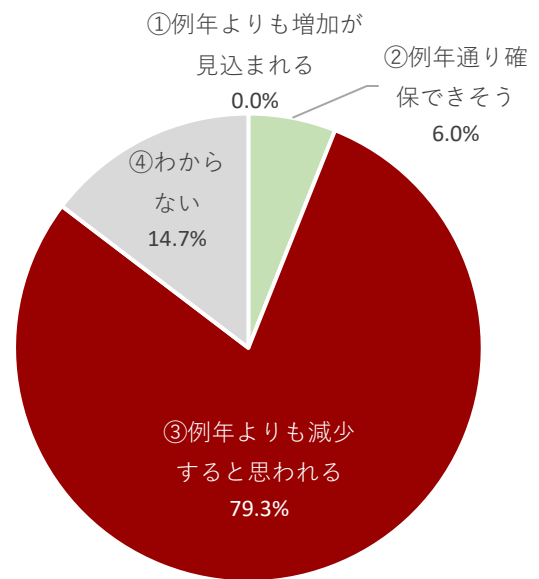
県央である渋川、前橋、伊勢崎は例年を上回る、ほぼ同じと回答した企業が少なく、山間部では若干多い傾向にある。

2. 群馬県が公表している工事発注見通しから 10 月以降の工事受注（土木、建築を含む）の予想

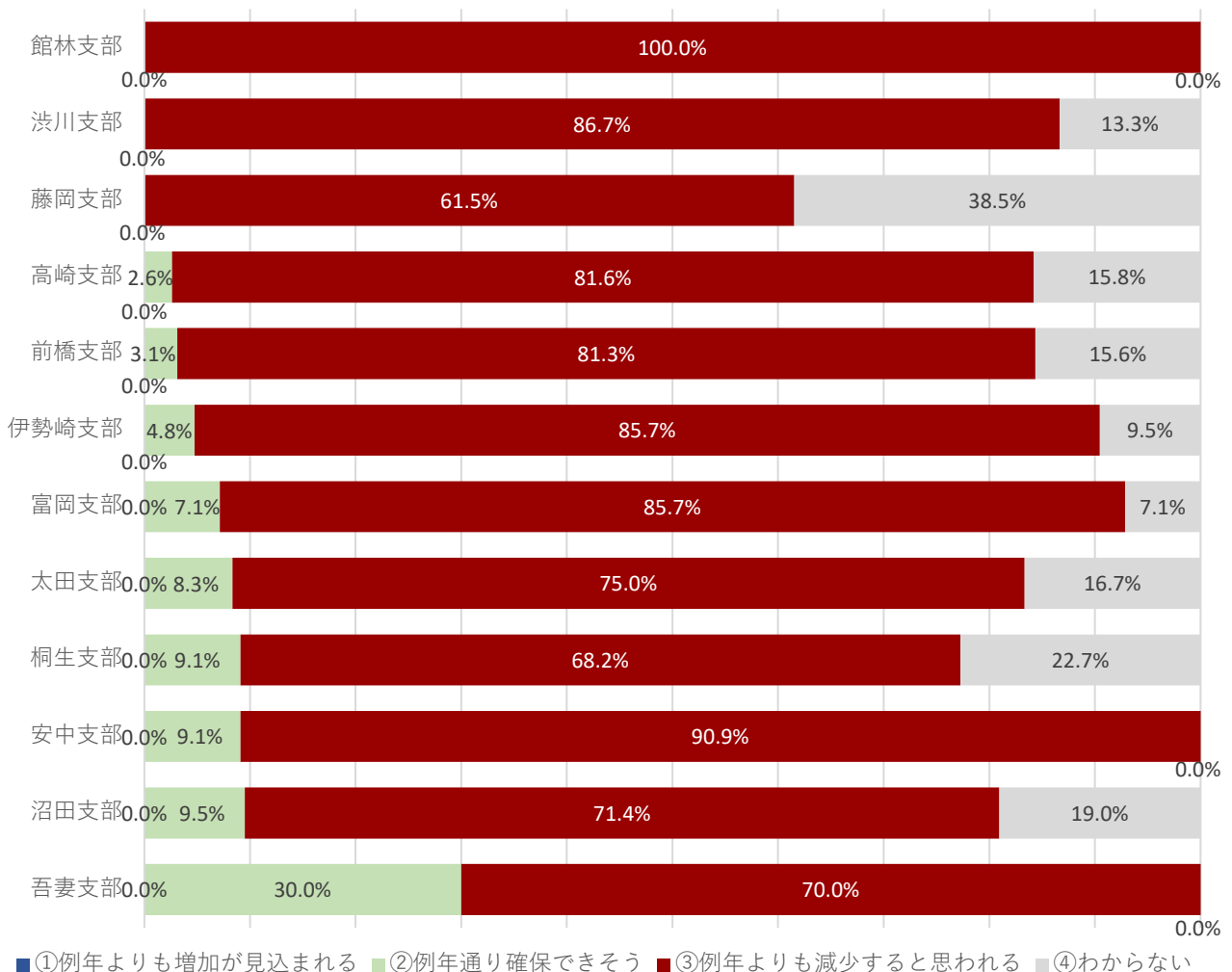
項目	選択社数
①例年よりも増加が見込まれる	0
②例年通り確保できそう	14
③例年よりも減少すると思われる	184
④わからない	34

※例年群馬県工事を受注していないと回答した 6 社を除く社数（232 社）。

受注の減少を予測している企業が 79.3%となり、多くの企業が先行きを不安視している。



【各支部別の状況】

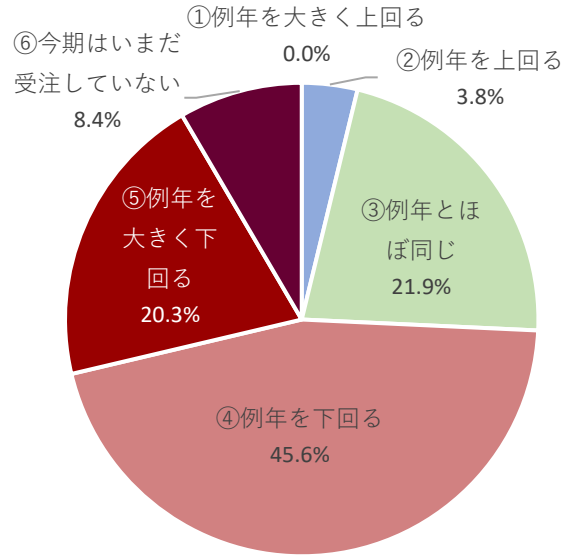


館林、渋川、藤岡の 3 支部は、増加もしくは例年通りの確保が出来ると答えた企業の割合が 0%だった。

3. 令和3年4月～9月までの公共工事全体（国、群馬県、市町村発注の土木、建築を含む）の受注量

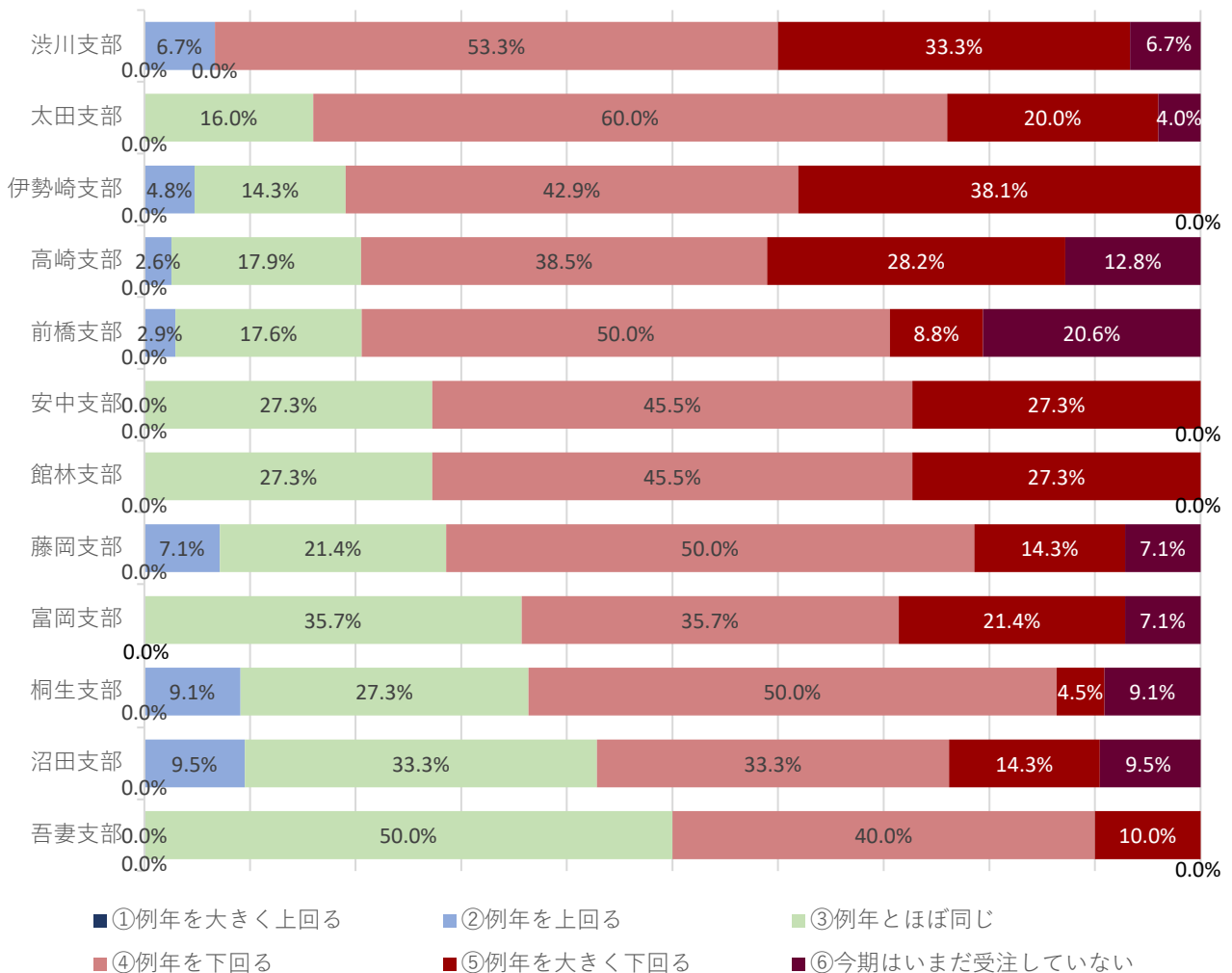
項目	選択社数
①例年を大きく上回る	0
②例年を上回る	9
③例年とほぼ同じ	52
④例年を下回る	108
⑤例年を大きく下回る	48
⑥今期ははまだ受注していない	20

※例年公共工事を受注していないと回答した1社を除く社数（237社）。



国交省、県、市町村を含む公共工事全体を群馬県工事のみと比較すると、今期受注なしを含め例年を下回ると回答した割合は74.3%となり、群馬県工事のみと比較すると3.7差だった。

【各支部別の状況】

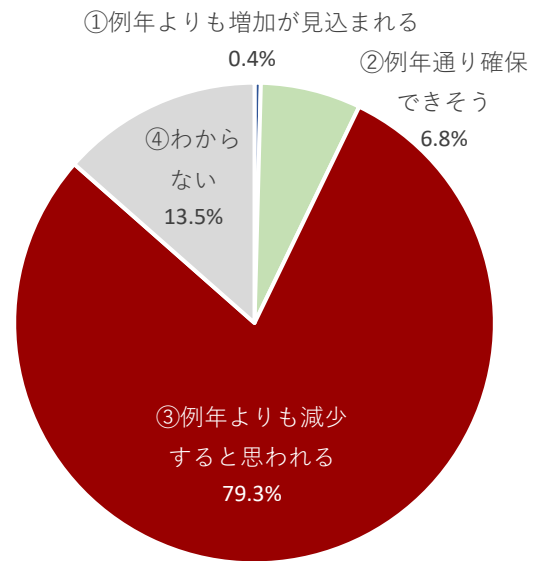


例年を上回ると回答した企業の割合で最も多い沼田支部でも9.5%と僅かであった。

4. 公表されている発注見通しから10月以降の公共工事全体（国、群馬県、市町村発注の土木、建築を含む）の工事受注の予想

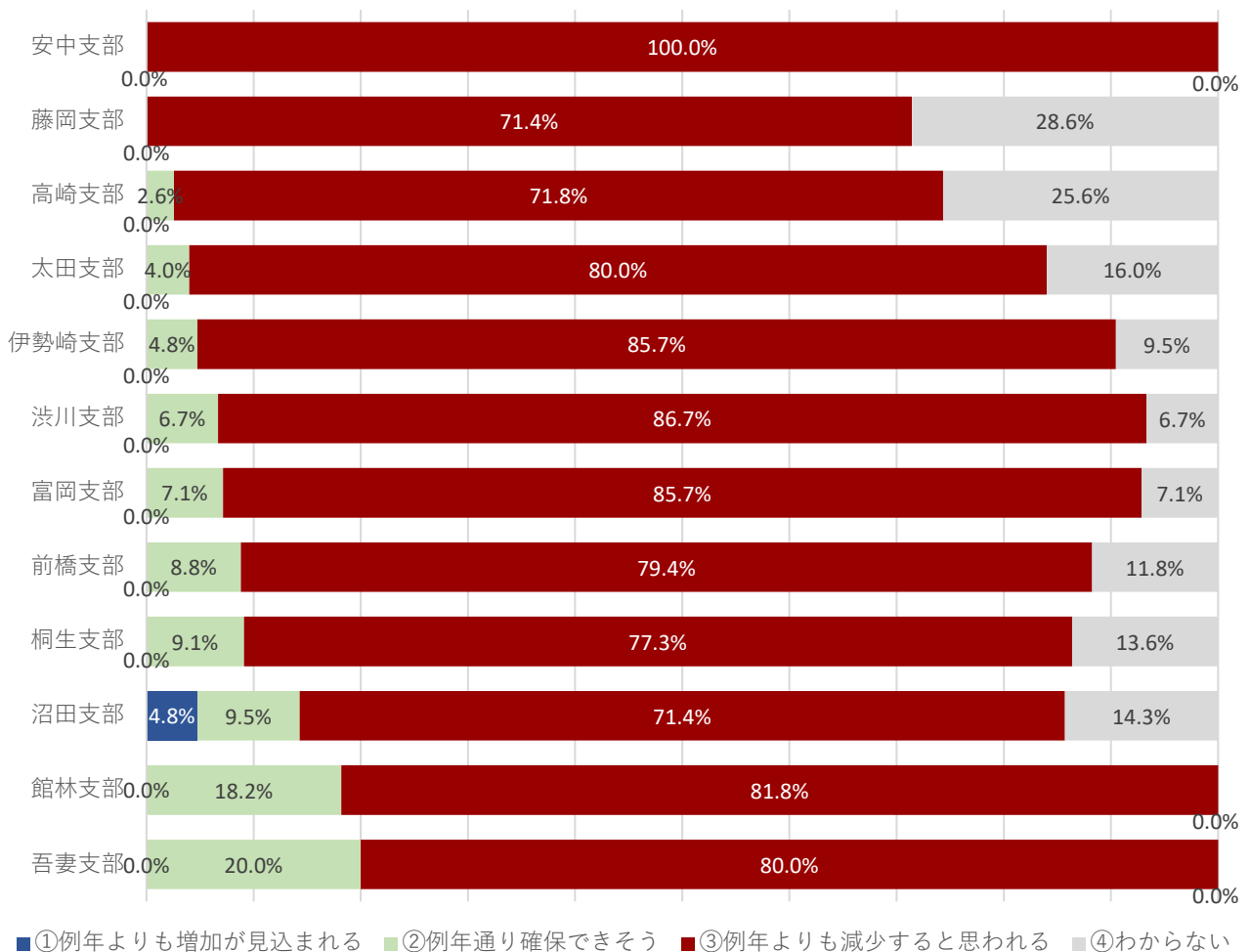
項目	選択社数
①例年よりも増加が見込まれる	1
②例年通り確保できそう	16
③例年よりも減少すると思われる	188
④わからない	32

※例年公共工事を受注していないと回答した1社を除く社数（237社）。



受注の減少を予測している企業が79.3%となり、多くの企業が先行きを不安視している。

【各支部別の状況】

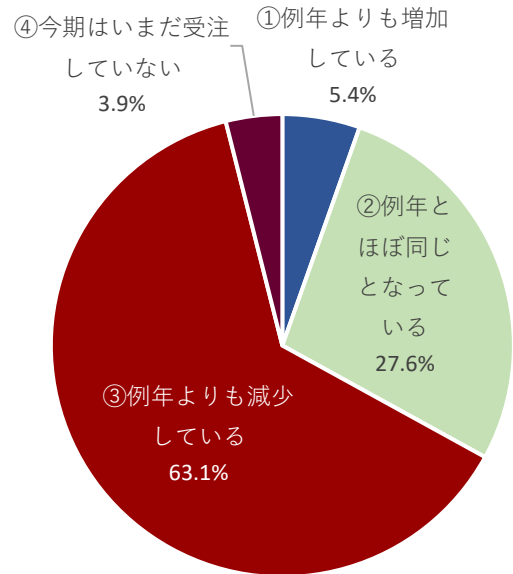


支部別では、安中支部会員は100%減少を予想している。例年どおり確保できるとの回答が多い吾妻支部においても、その割合は2割に留まっている。

5. 令和3年4月～9月の民間工事の受注量

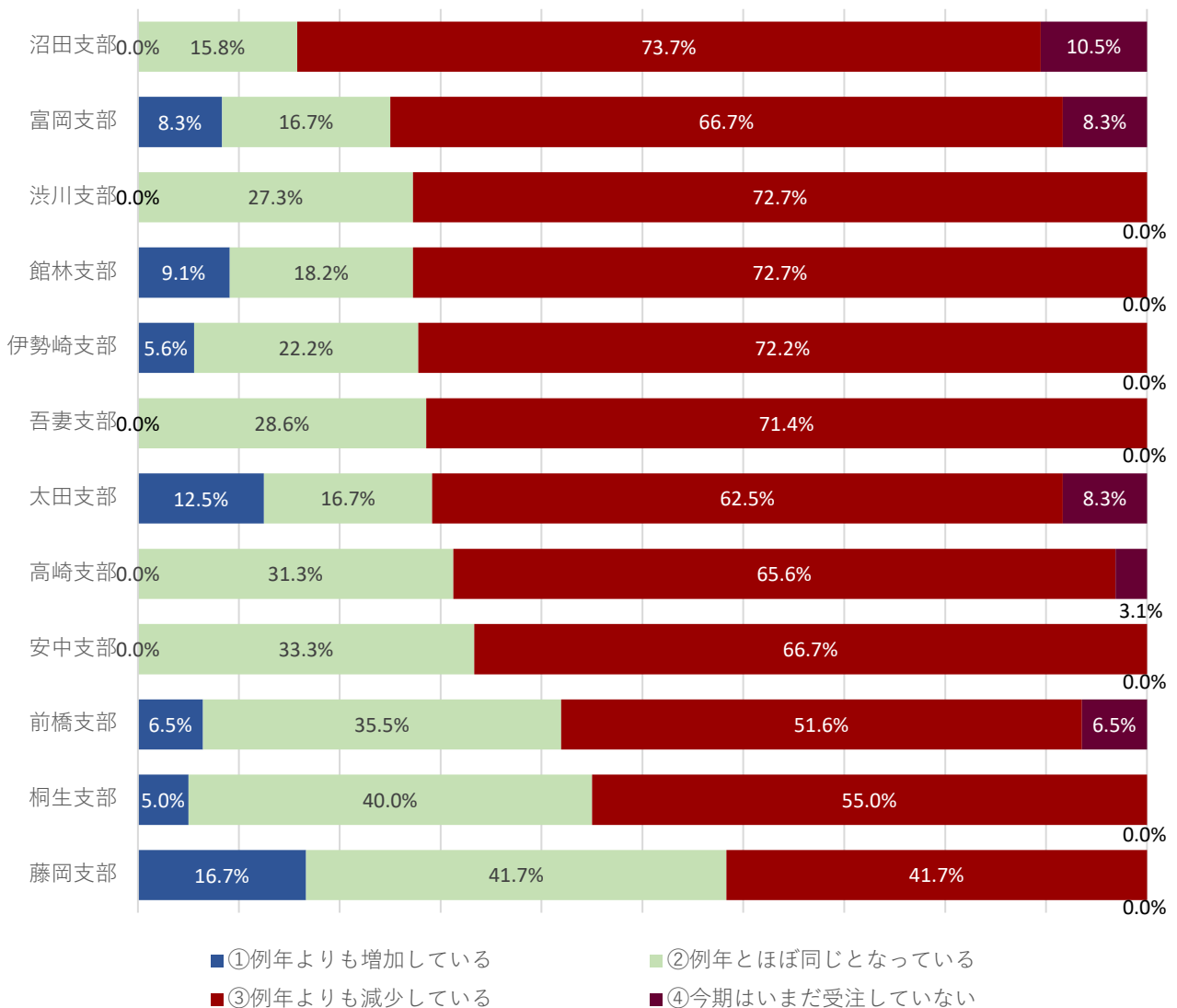
項目	選択社数
①例年よりも増加している	11
②例年とほぼ同じとなっている	56
③例年よりも減少している	128
④今期ははまだ受注していない	8

※例年民間工事を受注していないと回答した35社を除く社数（203社）。



民間工事では、公共工事ほどではないが、例年よりも受注量が減少していると回答した割合が最も多かった。

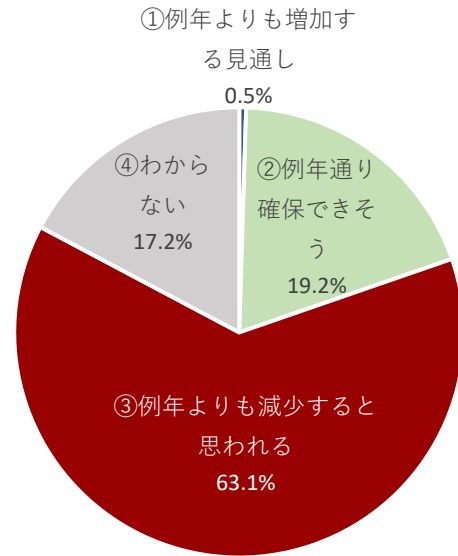
【各支部別の状況】



6. 10月以降の民間工事の受注の予想

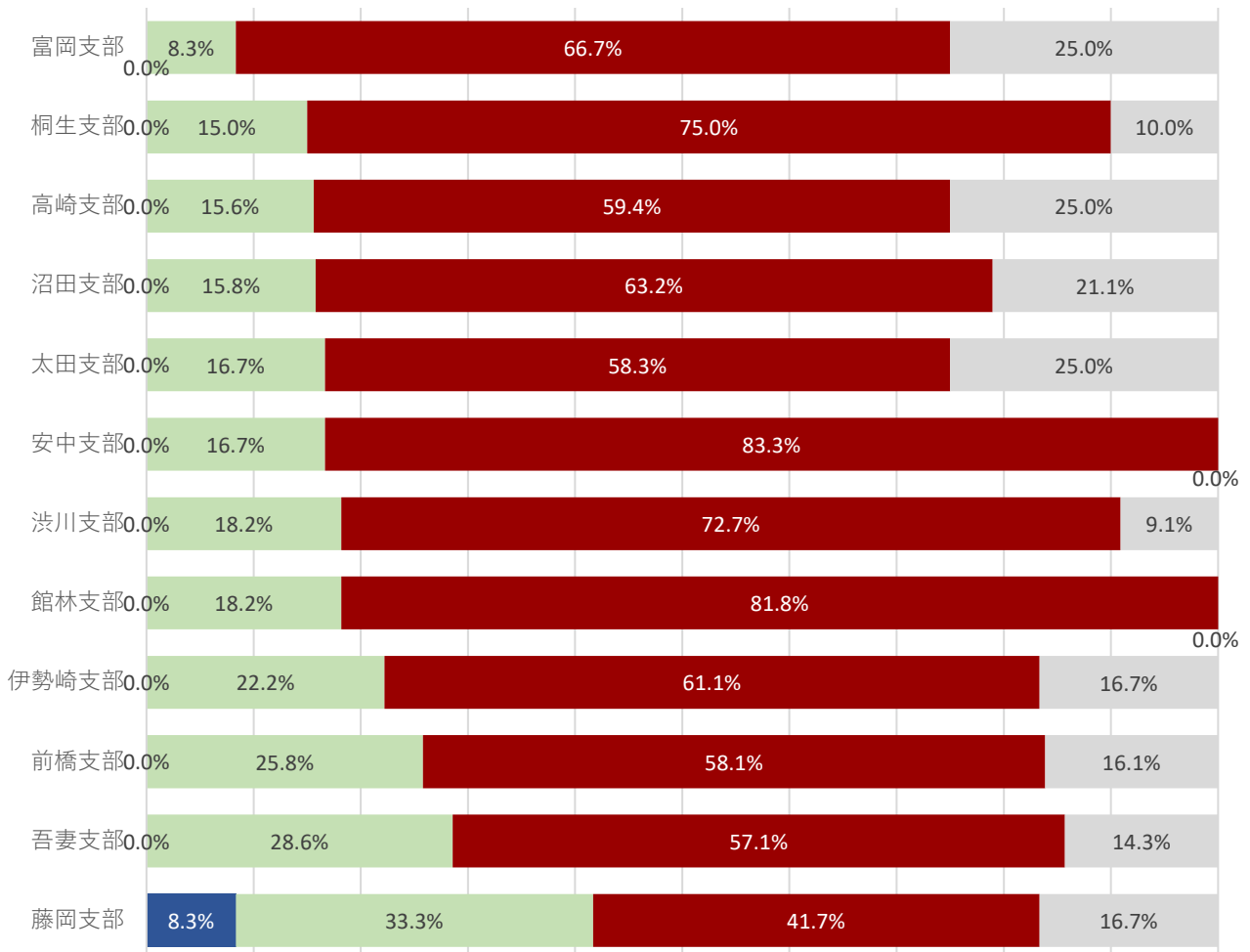
項目	選択社数
①例年よりも増加する見通し	1
②例年通り確保できそう	39
③例年よりも減少すると思われる	128
④わからない	35

※例年民間工事を受注していないと回答した35社を除く社数（203社）。



民間工事の見通しも減少予想が最も多く63.1%となった。

【各支部別の状況】

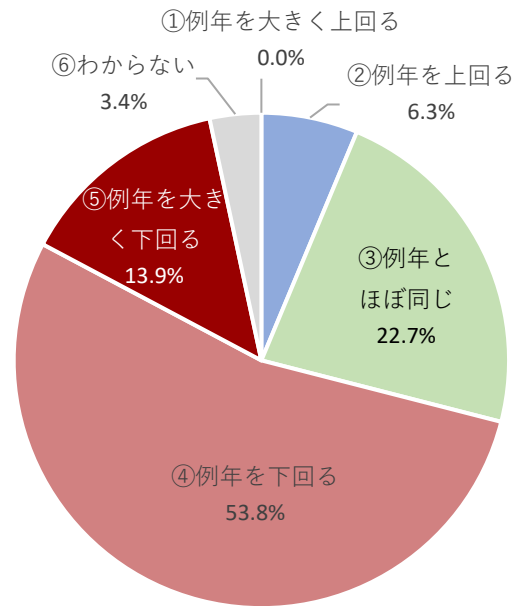


■①例年よりも増加する見通し ■②例年通り確保できそう ■③例年よりも減少すると思われる ■④わからない

7. 令和3年度の会社の売上高の予想

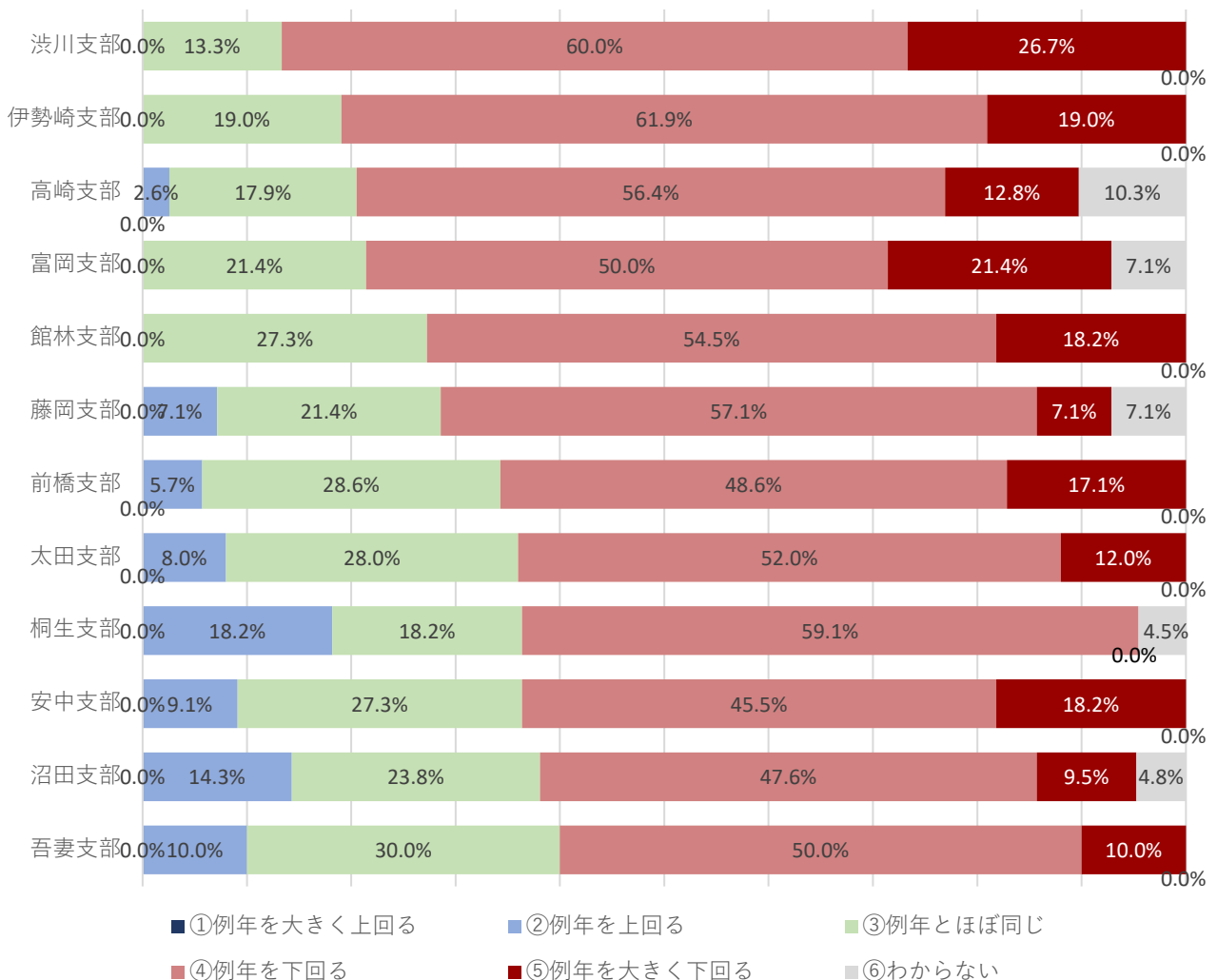
項目	選択社数
①例年を大きく上回る	0
②例年を上回る	15
③例年とほぼ同じ	54
④例年を下回る	128
⑤例年を大きく下回る	33
⑥わからない	8

※回答全社（238社）



売上が例年を下回ると予想する企業が約7割となり、危機的な状況となっている。支部別では、渋川と伊勢崎の減少予想割合が特に多くなっている。

【各支部別の状況】



8. 公共工事に関する意見（自由回答） ※全意見を掲載

【工事発注量・公共事業予算】

- ・ 群馬県発注の工事の発注量が相当少ない。
- ・ 群馬県の発注量が極めて少なすぎる。
- ・ 発注本数が少ない。1件当たりの発注金額が少額の傾向にある。
- ・ 発注件数、案件ごとの金額も小さくなり厳しい。
- ・ 公共工事の発注が少なすぎる。もっと発注していただきたい。
- ・ 地域の守り手としての責務を全うできるよう安定した発注をお願い致します。
- ・ 公共工事で補助等も出ない予想だし舗装工事も減少しているようだ。
- ・ コロナ禍の影響か急に発注量が減少したように思われます。経済を回すためにも公共工事発注量の増加を希望します。
- ・ 他県のように防災関連の予算を確保して欲しい。
- ・ 例年並みの発注量を確保していただきたい。
- ・ 公共事業費の増額をお願いしたい。
- ・ 今年は以前の台風被害の影響で仕事はあるが、来年度以降は不安で。安定的な仕事量の確保を願いたい。
- ・ コロナ対策で予算が使われ、今年度の補正予算・来年度予算において、公共事業の減少が心配される。
- ・ 令和3年度の補正予算の確保をお願いしたい。
- ・ 発注見通しに関する事で、本年度の県発注工事では、第一四半期～第二四半期にかけての案件に於いて、実際の発注が大幅(3か月以上)遅れるものが多く発注量が減った。そのことは無視できない要因であり、春先からの受注がまったくできなかった。
- ・ 例年と比べ発注時期が1ヶ月から1.5ヶ月遅れている。3月完成を予定しているのであれば完成に至らない工事が多くなる危険性がある。例え河川工事であっても着手までの時間が取れば、渇水時期に入ればすぐにでも着工できるので、早めの発注を望む。
- ・ 発注予定の案件はほぼ予定通りに発注されると思われるが、発注金額が例年より少なくなっている。
- ・ 発注予定として公表されている工事の確実な発注をお願い致します。
- ・ コロナの影響もあると思いますが、早期に予定通りの発注を期待

【限界工事量関係】

- ・ 新型コロナ対策の費用が必要な状況下では、一時的に公共投資予算を凍結することは、致し方無い事かもしれない。しかし、国からの補正予算請求を少なくするとは、建設業界を軽視しているのか。このままでは、緊急事態の対応が出来なくなる。
- ・ 施工体制、災害対応体制を維持するために、地域の実情を踏まえた発注量の確保をお願い

いしたい。

- ・ 社会資本整備や維持を含め予算により発注量が左右されるのは、承知していますが、緊急時や除雪等の作業を行えるのも一年間を通じてある程度の受注があつてのことです。
- ・ 公共工事の減少は地元の建設業にとって死活問題です。県民市民の安心・安全を守れるように工事量の確保をお願いします。
- ・ 限界工事量の確保
- ・ 地域を守る建設業の為に限界工事量の確保をお願いしたい。また災害に強い日本にするため国土強靱化を推進していただきたい
- ・ 入職者対策としても限界工事量の確保は必須なので、毎年継続して工事の発注をお願いします。また、技術継承の観点からも毎年バランスよく、舗装、道路、河川等を発注していただきたいです。
- ・ インフラ整備や災害時の活動持続のために公共工事の予算を確保していただきたい。

【地域性、地域別の格差】

- ・ 発注条件に地域性があり、参加できない。例として上信越、西毛広幹道等。
- ・ 発注量の地域差が多くみられる。
- ・ 新設道路についても事業年度に対してバランスよく県内業者で施工できるよう、早期から発注していただきたいです。
- ・ 吾妻西部地区においては山岳地帯が多く、冬季は雪及び凍結により施工条件が非常に厳しい。通年でも山岳高地における施工は平地より施工効率は悪い。高地山岳単価をこまめに設定していただきたい。北海道地区においては冬季暖房経費を設計単価に組み入れているので、考慮して頂きたい。
- ・ 特に県発注工事に言える事だが地域差により工事量に大きな隔たりが見える、工事量の平均化をお願いしたい。

【発注方法・工期等】

- ・ 指名・発注において、地域貢献度（年数・実績）や地域性（社会貢献）を特に必要としてもらいたい。
- ・ ランク中下位は指名入札で実施を望みます。
- ・ 安定的な工事量の確保/大型案件の地元優遇
- ・ C等級の工事が非常に多く、B等級が参加できる工事が少ない。
- ・ フレックス工期による契約方式を可能な限り運用拡大してほしい。
- ・ 現状の災害復旧工事における主任技術者と現場代理人の兼務について特例措置が取られているが、一般工事に拡大適用し今後も継続してほしい。
- ・ 技術者も限られていることから、500万円程度の小規模工事などにおいては可能な限り

点在型の経費等を用いて一工事として発注してほしい。

- ・ 近年の公共工事において、発注実績ばかり重視していて、受注しても着工できない工事ばかりなので、着工できるようになってから発注して欲しい。
- ・ 建設工事、機械設備工事でコロナの影響で納期に時間のかかるものが増えてきているので、工期を長めにとっていただきたい。

【人材育成・働き方改革・労務単価等】

- ・ 働き方改革による労働時間短縮により、日給制の労働者の月額収入の減少が予想される。現状では、作業の効率化等により、今までの収入を確保できるだけの成果を上げるのは、非常に厳しい状況にある。労務単価のさらなる見直しを希望します。
- ・ 施工体制維持に新卒採用予定だが、今後工事量が期待できないと人員体制を再考せざるを得ない。
- ・ 今後の工事発注の見込みが少なければ、人材育成や確保の活動はペースダウンすると思われる。是非、ある程度の発注するための予算を確保し、後世につなげられる建設業を守っていただきたい。

【維持修繕・インフラ整備関係】

- ・ 公共工事のなかで土木工事（道路補修）に関して、だいぶ危険で傷んでいる箇所が見受けられます。できるだけ予算を付けて早期の改善を望みます。
- ・ インフラ整備が十分ではないと思われませんが、整備に必要な予算があるとも思えません。河川の整備についても同様です。気象が経験してきた状況とはずいぶん変わってきました。ほかにも状況が変化してことはたくさんあると思われまます。県土強靱化の計画の見直しが必要かと思えます。
- ・ きめ細やかな防災減災対策が必要で、未施工箇所が多い。

9. 民間工事に関する意見（自由回答） ※全意見を掲載

【工事量】

- ・ 設備工事では、一部の職種以外は発注が減少している。
- ・ 新型コロナの影響で民間の仕事が無い。補助、助成金等を補正して頂きたい。
- ・ 公共工事と同様の心配をしている。

【競争激化・安値受注】

- ・ 民間工事においても引き合い数は増加している。
- ・ 受注が厳しくなっている。工事原価すれすれでないと受注出来ない。

- ・ 全体工事量として減少しているのかわかりませんが、価格競争が激しい。出来る限り適正な金額で受注したいです。
- ・ 厳しいの一言

【工期・休日確保問題】

- ・ 相変わらず、土日祝日施工が多い。リクルート活動にも影響が出るので、社会全体の流れとして考慮してもらいたい。
- ・ 休みの取れない工期設定が多い。民間工事においても週休2日制度が広まってほしい。

【その他】

- ・ 山間僻地について、生コン、合材等は単価が区別されているが、すべての材料についても運搬費等が余分にかかったりするので見直して欲しい。人件費についても、同様に見直して欲しい。
- ・ 吾妻西部地区ではもともと民間工事は少なく公共工事に頼ることが多い。地域を守る建設業として存続していくための最低工事量を確保して頂きたい。
- ・ 民間工事については自己責任と考えていますので、特にはありません。